

第1回 中川原公園の未来を語る会②

—中川原公園の災害復旧に関する説明会—

意見要旨

■日時：

令和5年10月14日(土)18:00～19:00

■会場：

人吉市役所 2F 201 会議室

■次第：

1. 開会
2. 中川原公園の災害復旧に関する説明
3. 質疑応答
4. 10月28日のワークショップ案内 (WS)
5. 閉会

■出席者：

市民：4名
役所：1名
事務局：8名
コンサル：4名
山王：1名
双栄建設：1名

質疑応答

■住民1（瓦屋町）：

- ・中川原公園の魅力は、食事・買い物、宿泊を気軽にできるなど様々な活用ができることであり、週末は街中に出ることを楽しんでいた。
- ・説明資料の図面では駐車場が10数台とあるが、さらに駐車場の台数を増加する計画にすることは可能か。

■事務局：

- ・駐車場について、被災前は公園内に15台分の駐車スペースがあったが、駐車場の台数を増やしてもらいたいという意見が挙がっていた。駐車場の台数については、28日のWSにおいて検討する、中川原公園の役割を踏まえつつ、住民の意見を収集しながら検討を進めたい。

■住民1（瓦屋町）：

- ・トイレは移動式ということだが、トイレ以外に水道設備はあるか。

■事務局：

- ・水道については、人吉大橋の下に水道管が通っており、そこから直接人吉大橋の下に降ろすことを想定している。水道を含む公園内施設については、今後様々な意見が挙げられると想定されるため、それらを勘案しながら検討を進めたい。

■住民 1（瓦屋町）：

- ・植樹の計画について教えてほしい。

■事務局：

- ・被災前は下流側に多くの樹木があり、木陰も多い状況であった。そのため、八代河川国道事務所からも木陰が必要であり、樹木を設置した方がよいのではないかという意見をもらっている。八代河川国道事務所に対しては、樹木を設置したい場所を市から提案し、協議を進めていきたい。

■住民 2（九日町）：

- ・地盤を 2m 下げた意味について、再度説明をお願いしたい。

■事務局：

- ・復旧の案として、①原型復旧案、②施設を撤去する案、③公園の地盤を 2m 下げる案、④公園を廃止する案を八代河川国道事務所にて検討を行った。結果として、①原型復旧案に比べ、③地盤を 2m 下げる案と④公園を廃止する案では、公園付近の流速が低下し、球磨川の流れが安定することが分かった。②地盤を 2m 下げた場合、水位は①原型復旧案に比べて川の南で 22 cm 下がり、④公園廃止案では、左岸側で 24 cm 下がるという結果になった。③と④は 2 cm の差だが、公園を活かしつつ球磨川の治水安全度を高めるため、③公園の地盤を 2m 下げる案を採用した。

■住民 3（老神町）：

- ・照明については、公園中央に設置したとしても、公園の周囲を散歩する場合は明るさが足りない。被災前は園路に沿って照明等があったため散歩ができる状況であった。浸水に備えるためであれば防水性の照明を設置することも一つの案ではないか。

■事務局：

- ・八代河川国道事務所に照明は橋脚の流心方向（中川原公園の上流端から下流端までの真ん中）にしか配置できないと指示を受けている。しかし、かわまちづくりにおいて実施された社会実験の場で、八代河川国道事務所が照明の必要性に関するアンケートを実施しており、その結果を市は把握している。そのため、改めて照明の配置について協議を進めていきたい。また、上流側は流速が速く、照明を設置した場合に折れてしまう可能性があるため、現時点では下流側に集約した配置にしている。

■住民 3（老神町）：

- ・球磨川と触れ合える場所も作ってほしい。

■事務局：

- ・八代河川国道事務所が、球磨川へのアクセスがしやすくなるような護岸整備を検討している。八代河川国道事務所は護岸整備や球磨川へのアクセスの検討、市は公園内の復旧を進めるという役割分担を行っている。

■住民 2（九日町）：

- ・中川原公園の地盤を元に戻すことは可能なのか。

■事務局：

- ・被災後、様々な意見をいただいた中で、川の流れを阻害しているのではないかという意見が多かった。

そこで中川原公園を撤去するのではなく、治水機能を持たせつつ、浸水するリスクを承知の上で利活用を検討するという方向性で決定しているため、戻すことはできない。

■住民2（九日町）：

- ・本日のような説明会や今後実施する WS について、八代河川国道事務所の出席は可能か。

■事務局：

- ・本日は、WEB にてかわまちづくりに関わっている建設環境を通して八代河川国道事務所に共有される。また、28 日開催の WS には参加してもらう予定である。

■住民2（瓦屋町）：

- ・上流側の被害が大きいようだが、左近の石を置くことを検討してはどうか。

■事務局：

- ・川の中への設置可否の判断は八代河川国道事務所が行うため確認する。

■住民2（九日町）：

- ・以前別のまちづくりに関する取組で関わったコンサルタントは、ただ住民の意見をまとめるだけで行政に伝えてもらえず、意見が実現しなかった。今回も同様の結果となることが避けたいと考えるが、コンサルタントの位置付けについて教えてもらいたい。

■オオバ：

- ・住民とコンサルタントだけで話す場はなく、必ず市や国等の関係者が同席して会を開催することになる。住民からの意見を収集しつつ、その実現化に向け知恵を絞るのがコンサルタントの仕事だと認識している。しかし、良い意見であっても実現できないこともあると思うが、出来る限り実現させるため、皆様と一緒に考えていきたいと考えている。

以上